

豊かな体験活動 & 子ども双方向交流

国の子ども農山漁村交流プロジェクト(豊かな体験活動)推進に歩調を合わせて、県は独自に、その逆ベクトルとなる本県児童の都市体験を推奨し支援しています。西明寺小学校(佐藤心一校長、児童数150名)は、そのモデル校として2年目。7月には当校5年生22名が、文京区立本郷小学校を訪れ「食育」「キャリア教育」をテーマに交流を深めてきました。西木産の農産物が、大消費地東京の食卓にどうやってたどり着くのか。その流通経路を追跡する旅でした(本紙9月号で紹介)。8月には、本郷小5年17名が農業生産地の本市を訪問しました。農作業を体験し、農山村の生活や文化にふれる2泊3日でした。このたびは、その模様をレポートします。

◇地元農家での農作業体験(8月18日)

今回の訪問・交流において中核となるもので、4つの農家に受け入れていただきました。2校39人の子どもたちも、4グループに分かれての体験活動でした。



門脇さんとトルコキキョウの出荷作業

花卉栽培の門脇実さんのところでは、ハウスで栽培しているトルコキキョウの収穫と出荷作業を体験しました。花が消費者へ届くときに最高の状態になるように、目かき等の細かな作業が一つひとつ丁寧になされていました。

ほうれん草栽培の西木園芸(鈴木弘正)さんでは、ハウスで栽培しているほうれん草の収穫と出荷作業を体験しました。収穫したほうれん草が同量となるように重さを量り、一つひとつ丁寧に袋詰めされていました。



鈴木さんとほうれん草の袋詰め作業



藤村さんとネギの皮むき作業

ネギ栽培のサンファーム西木(藤村隆清)さんでは、ネギの収穫作業を体験しました。スコップで掘ったネギを同じ長さになるように先端部を切り落としていました。コンプレッサーで吹き飛ばす皮むき作業に夢中でした。



むらっこ直送便の佐藤さんと野菜の梱包作業

むらっこ直送便(佐藤厚子)さんでは、地元農産物の出荷梱包作業を体験しました。近隣農家から集められた野菜が生産地や生産者が記載された用紙とともに丁寧に梱包され、宅急便で消費地へ送られていました。何日かして、佐藤さんのもとへ本郷の男の子から残暑見舞いが届きました。「自分が梱包して(自分の)名前を書いた野菜を(東京の)スーパーで買いました」と記されていたそうです。

◇学校交流&農村文化体験(8月17日) ~戸沢氏祭り参加~

再会を果たした39人は、早速、西木の夏祭り「戸沢氏祭り」へと出かけました。まずは衣装替え。市役所や婦人会の方々の手助けを借りて、全員「領民」に変身し、門屋城址から河川公園まで練り歩く「お家行列」に参加しました。

夕方の盆踊りにも参加しました。本郷の子どもたちは、初めはややぎこちなかったのが、西明寺の友達のまねをして、だんだんスムーズな動きに。祭りの盛り上げに大きく貢献してくれました。



領民服姿で盆踊



フィナーレは花火大会。目の前で、点火台から真上に打ち上がる花火。そのたびに、「ワー」「ウォー」の歓声が。真夏の夜の夢、夏の思い出の1ページになりました。

◇農家民宿における農村生活体験(8月17・18日)

子どもたちが宿泊したのは、地元の農家民宿(藤井けい子さん、沢山純一さん、高橋佳子さん、佐々木弘子さん、門脇昭子さん、佐藤郁子さん)でした。グリーンツーリズム運動の一翼を担って活動しておられることから、さまざまに工夫を凝らした農山村体験が準備されていました。

家庭菜園でささぎやとうもろこしをもぎました。裏の川に入り、パンツまでビショビショの川遊び。大きなソリを筏代わりにして、ゆらりゆらりと川を下っていきました。「味噌たんぼ」づくり。夕食に自分



野菜もぎ



味噌たんぼ作り

で食べる分なので、真剣そのもの。すりこぎでつぶしたごはんを割り箸に差し込み、形を整えてOK。山へ行き、山菜(わらび)採り。ついでにセミ捕りも。収穫品は夕食の一品になりました。



セミ捕り

◇地域文化体験(8月19日) ~武家屋敷通り散策~

最終日、西明寺の子どもたちの案内で武家屋敷から角館駅まで散策しました。石黒家、青柳家、平福記念美術館、伝承館、新潮社記念文学館をめぐる全日程終了。別れを惜しましました。

